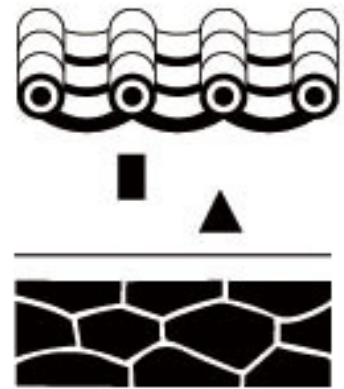


OGO 第76号

小田原ガイド協会だより

平成30年 6月 1日発行（夏号・季刊）

NP0 法人 小田原ガイド協会 〒250-0014 小田原市城内3-22
TEL 0465-22-8800 FAX 0465-22-8814
ホームページURL <http://www.odawara-gaido.com>



「新年度会長就任挨拶」

堀池 衡太郎

NP0 法人小田原ガイド協会には人材が豊富なので、二年前に私にお鉢が回って来ることはあるまいと、呑気に構えていたのですが、当時の会長及び副会長から説得され、前任会長の任期二年を残して急遽登板となりました。

引き受けたからには、協会ファーストで努める覚悟でありましたが、前年に大病を患い体重も十キロ痩せ、体力面で自信がありませんでした。

又、新役員の初登板も例年より多数で、その方々の向上心を考えるといささか今後が心配になりました。その時に私が第一に掲げた考えとは、三年経った今でも何ら変わることはない不変的な思いは「協会発足の理念」と新しい息吹を加えた「自立した団体」への移行、これは「時代に即応した」体制作りを考える上で、潤沢な活動資金の確保と、一歩前に出る協会に成る様にとこの二年の任期を動いてきました。

この新年度に向かう頃、市職員

の方から大変嬉しい言葉を頂きました。《最近のガイドさんは質が高い》と言われ、心の中でガッツポーズをし、協会員さんを誇らしく思いました。この言葉は指揮者として大変名誉ある言葉です。協会員の皆様に多大なご協力を頂いたこの二年間でした。感謝を致します。

私が会長に就任する前の二年間副会長として、前会長楓川さんの下で協会内の改革を優先権を以て方向転換をしてきました。歪現象も発生しこの二年間は内向きの改革、定款・規程・附則と、特に委託業務に対して委員会を作り検討をお願いし遂行してきました。

又、改革の中でも役員推薦・被選挙人の規程・附則等は現在社会の高齢化と真逆の方向に導き、最大の歪現象が生じ、優秀な人材を役員に残せなかったことは、指揮官として誠に申し訳ない思いです。これは今年度、時代にあった規程・附則に変更を考えています。体力的な問題と、実質社会現象と同一方向に向き合い、それに対応する定款であり、規程・細則で運用をする必要があることを痛切に感じました。新年度を迎え早々

に編纂をするように動いています。協会外の動きでは、具体的に小田原駅前お城通り・小田原漁港整備が進み、その後は城下町市民ホール建設が組み込まれています。城を中心とした、小田原西部の様子は一気に変化の兆しを感じられます。この数年は行政の動きに即応した対応が今後のガイド協会の方向性を決定する重要な時と考えます。

お客様のご意見で、「夏のツアー」でガイド員がお客様と混在して見分けが付き難いとの意見を入れ、夏用の制服を今年度から取り入れます。又、街の回遊性・滞留時間の増加を手助けし、少しでも快適な時間を持つて頂く様にインフラの増設を考えています。

次の事業の計画も前述の小田原西部整備開発にしたがい、ガイド協会も粛々と体制造りを考えて進んで行こうと思います。

同じ活動をするなら協会員の方々が楽しく、夢を持てる環境作りも重要と考えています。

偏に、新理事さん、協会員の方々、賛助会員の皆様のご協力、ご支援を賜りたく、よろしくお願い申し上げます。

◆歴史と文化の街 国府津◆ 企画ガイド

「最後の将軍・ 徳川慶喜公の散歩道」

香川 興勝

今日のガイドは明治四十三年、七十三歳になった慶喜公が、国府津・鳴沢の滝近くの大鳥別荘に滞在して散歩した約八キロの道を歩きます。

慶喜公は別荘では午前中は読書と書、午後は近所を散歩した。南は国府津の浜、北は津島神社、東は別荘の裏山の高台で富士山や箱根の遠望を楽しみ、西は森戸川土手までの一〜二キロ圏内だった。

三年連続の本企画への参加者は五十四名。市外からの参加者が六十%。幸い天候にも恵まれ、六班に分かれて国府津駅を出発した。駅前に現存する待合や国登録有形文化財を見て国府津館跡へ。ここは柳田国男、幸田露伴や渋沢栄一ら多くの文人・軍人の投宿者が多かった処。近くには慶喜公の主治医で国府津小の校医だった和仁真一郎がある。慶喜公より贈られた直筆の感謝状・掛け軸がある。次いで、国府津の浜から国道一

号線の北側へ出て、宇多天皇の右大臣菅原道真公を祀る菅原神社を参拝。日本アニメの父・大藤信郎が眠る蓮台寺では満開の枝垂れ桜に全員感動した。小田原で最古の寺院、宝金剛寺に参拝し境内で楽しく昼食。許して下さった住職様に感謝します。

午後は慶喜公の別荘跡へ。元学習院長・清国公使の大鳥圭介が六千坪の土地に建築した「滝の家」別荘。明治四十四年に大鳥没後、夫人の配慮で慶喜公が避寒のため使用した別荘で慶喜公は亡くなるまで二年間使用した。

ガイドは剣沢川沿いに咲く桜や慶喜公が人力車で遠出した曾我梅林の梅を見て終点、下曽我駅に到着。参加者からの「気持ちの良い



蓮台寺の枝垂れ桜

爽快な一日でした。この感謝の言葉を頂き、全員無事でお別れした。

◆青い海と桜の遠望◆ 企画ガイド

「根府川から江之浦への史跡」

秋山 正雄

三月下旬、根府川駅発の企画なので、メインはてつきり「おかめ桜」と思いきや江之浦へ向かうコースに決まった。私にとつては意外なコース設定となった。

下見段階で課題が二つ見つかる。一つは、江之浦漁港から相翁松碑まで。景観は見事だが急な農道の左右は、みかん畑ばかりだ。もう一つは、天正庵から根府川へ向かう旧熱海道は、林の中で景観も無い。ガイド各員はバリエーションを持つて対応したことだろう。

根府川地区は、寺山神社、岩泉寺、関所跡、釈迦堂などを巡る。寺山神社の隣に一部残る「若者宿」は若し頃、青年団体で共に活動した人達を懐かしく思い出す。彼らの団結力は他の地区に無いものを感じた。それはこの「若者宿」での合宿で養われたものだったかも知れない。

参加の皆さんは、関東大震災での被害の大きさに驚きの声も。江之浦地区では、漁港、相翁松

碑、昌満寺、天正庵などを巡る。一三五号線は、何度となく車で通っていたが、こんな史跡が有ることに気づかずになっていた。参加の皆さんも新発見が多かったようだ。

相翁松は三代目も枯れて今は無い。残念だ。天正庵はどうしてこんな所に庵があるの？という素朴な疑問から出発した。今も秀吉由来の品が多く残されていることを知る。遠望できるはずだった「おかめ桜」は異常気象のせいかな？満開はとうに過ぎていた。

終点は再び根府川駅。天気よく、事故もなく、全員みやげの湘南ゴールドを提げ帰路についた。



大野家に伝わる秀吉由来の品々
(天正庵)

◆桜のトンネルと小田原城◆

企画ガイド

「桜と城と西海子小路」

関森 規安

気をもんでいた。数回の下見でもその兆しはあったものの、まさかこんなに開花が早いとは思ひもなかった。しかし気を取り直した。桜が散ってしまった訳ではないのだから、そのままを見てもらい楽しく帰ってもらえるようガイドしよう、と六名全員が気持ちを引き締めた。美味しいお弁当も昨日注文してある。

四月五日、二十八名のお客様と小田原駅を順次出発。気温は寒くなく丁度良い感じで心地よい。普段はあまり案内しない小田原城天守閣の裏側（西側）も案内する。ここは桜の隠れた見所だ。

閑院宮跡の坂からも天守閣を囲むように桜が見える。もし満開だったらどんなにか綺麗だろう。かまぼこ通りを経て海へ出る。実は海へご案内すると時間が無くなってしまう、との意見も下見の段階で出たが、私としては海はどうしても案内しておきたかった。お客様にも喜んで頂いた。



松本剛吉別邸 茶室「雨香亭」も見学

西海子小路に出ると、桜のトンネルが迎えてくれている。おお、心配したよりは花が残っているではないか、とお客様と共に感動する。小田原文学館では「田吾作」のお弁当が待っていた。感想を聞くと「美味しい」との声にホッとする。庭を散歩したり、白秋館をのぞいてみたり記念撮影をしたり、と過ごされている。

江戸時代から残る街割りを見てもらいながら、白秋作の童謡も紹介する。小田原城へ向かいゴールの隅櫓に到着。季節のいたずらに皆が本当に気をもんだ本企画であつたが、それなりにお客様にも楽しんで頂けたと感じた。

◆歴史と山海の景色に◆

企画ガイド

「シヤガの花咲く石垣山城」

飯田 敏明

昨年度にも実施された企画であったが、企画員五名がコース設定とネーミングに意見を出し合い、さらにシヤガの見頃の実施日についても検討を加えました。

四月二十八日（土）春の大型連休の初日、早川駅前には四十一名のお客様が快晴薫風のこの日に参加できる事を喜んで下さいました。

早川駅からは海蔵寺へと進み、特に今回は眺望のきくようになつた堀秀政の供養塔先から、海や天守閣及び富士山（ふじやま）方向までを望んで、小田原合戦時の攻城軍の陣や総構えに皆様それぞれに思いを馳せた後、石垣山に向かいました。

途中、合戦参陣武将たちの説明板前では各々の波乱に満ちた人生を想い、丹沢の山並みや大山を見てはその成立ちや歴史に触れました。石垣山城では、本丸跡のシヤガの花は一面咲き乱れとはなっていないませんでした。城の石垣はじめ眺望等で、皆様には「石垣山城がよくわかった。」と満足して頂



秀吉が築城した石垣山城二の丸跡

いたと思います。

午後は、雄大な相模湾の眺望、大磯丘陵の稜線や街並みを愛でながら、途中、蜜柑の話題で歴史も語ると、お客様から歌まで出て大いに盛り上がりしました。少し足弱のお客様もいて下りの急な所ではペースを考えての案内により予定通りの到着となりました。

天候にも恵まれ、皆様には「山や海の景色を楽しみ、歴史にも触れる事ができた。」と喜んでいただけました。

途中多くの春の花々が咲いていて、花も楽しんでいただけた企画となりました。

小田原文壇恋愛模様(第四回)

三好達治

詩人のファミリアタル

戸田博史

ファミリアタルというフランス語がある。直訳すれば「運命の女」だが、男性を破滅させる魔性の女の意味が含まれる。三好達治は二十七歳の時にその運命の女に出会ってしまった。

その人の名は萩原アイ。私淑する詩人萩原朔太郎の妹だ。丸顔でつぶらな瞳、少しコケティッシュな女性だが、その時二三才ですでに二度の離婚を経験していた。いわばお嬢さん育ちのわがまま娘だ。三好はアイに一目惚れしすぐに結婚を申し込む。だがアイの母親が強硬に反対した。「文学志望の貧乏詩人など信用できない」

結局アイは作詞家の佐藤惣之助と結婚する。佐藤は「湖畔の宿」「人生劇場」などの大ヒット曲を持つ。アイは贅沢三昧の暮らしを謳歌した。

その僥倖を見届けるかのように、三好は佐藤春夫の姪の千恵子と結

婚し一男一女を設ける。そして小田原の南町に引っ越してくる。ここで三好は旺盛に詩作活動が続けた。だが当時の三好の家庭は必ずしも円満とはいえなかった。

昭和一七年、萩原朔太郎が急逝。その四日後に佐藤惣之助が脳溢血で逝った。アイはたった数日で敬愛する兄を亡くし夫をも亡くした悲しみに暮れるアイのそばで三好はひそかな決意をした。そして朔太郎三周忌の日アイに告白する。「妻との間が冷えているのは、貴女という人が忘れられないからだ。今日まで自分はずっと、あなたを想い続けて、愛のない生活をして来た」

(小説「天上の花」萩原葉子)

われわれ凡人は周囲の状況を考え慎重に行動する。だが文学者は自らの感情や利那を大事にする。規範は己の中にある。

三好はサツサと離婚手続きを進め、妻子を小田原に残したまま、アイとともに福井県三国への逃避行を敢行する。

太平洋側の小田原から日本海の三国へ。雪国での「愛ある生活」を夢見た三好だったが、現実には悲惨だった。

古民家の古びた白壁に風情を感じる三好とそれを汚いと感じるアイ。最初の日からアイは騙された!と感じたという。さらに酒が入ると三好は気難しくなる。それは暴力にまで発展した。アイの顔がお岩のように腫れたこともあったという。

壮絶な生活は続き、たった十か月で二人は破局した。アイは必死で三好の元から逃げ出す。三好は知人の家で泣きながら叫んだという。「愛してるんだが、どうすればいいかわからない!」

アイと別れた後、三好に浮いた噂はなく最期まで独り身だった。死後にタンスの奥から赤い襦袢がでてきたという。アイがともに暮らしていた時のものだ。三好はそれを大事にしまっていた。最期までアイを忘れられなかったようだ。

この三好達治の「愛の物語」から得られる教訓は明瞭に思える。異性を顔カタチで選ぶな。

こんな簡単な摂理がわからない文学者が多すぎる。とくに小田原地方には。

※小田原文壇恋愛模様は今回にて一旦終了します。次回シリーズにご期待ください。

文殊の知恵

いろいろな言えば名古屋?

ガイドをしていて「いろいろ(お菓子)は名古屋では」といわれるお客様も多い。そこで今回は名古屋のいろいろを探ってみた。

◆名古屋では「青柳(あおやぎ)総本家」(以下青柳いろいろ)と「大須いろいろ」の二社が人気を競っている。

◆東海道新幹線が開業した時、青柳いろいろが新幹線の車内販売の権利を得て、名古屋土産として有名になり、名物として広まる。

◆この頃、日持ちがする真空包装が開発されたことも重なる。

◆二社とも、TVやラジオにて歌のCMを盛んに流しており、東海地方にはかなり浸透していた。

◆青柳いろいろのパッケージには柳が描かれているが、「柳」を英語では「ウィロウ」と発音する。

◆編集子が食した感想では、青柳いろいろは柔らかな食感、大須いろいろはしつかりとした食感である。

◆両社のHPでは、いろいろは礼部員外郎という職にあった者に由来する、と紹介している。

● 新しい 13 名の仲間達！ ようこそ小田原ガイド協会へ！

平成 30 年度新入会員 6 期生紹介 【 1. 趣味・特技 2. 抱負 】を語って頂きました。



1 班

柏木 由美子 (かしわぎ ゆみこ)

1. 旅行、週一のジム通い
2. 一年間の研修を終え、ガイドとして入口に立ったばかりですが、小田原の魅力を楽しく発信していけるようなガイドを目指していきます。



1 班

菅野 達義 (かんの たつよし)

1. 家庭菜園、スポーツ観戦
2. 福島から小田原に移住して三年、北条氏に興味を持ち養成講座を受講しました。一日も早く「自分の言葉」でガイドが出来るよう頑張ります。



1 班

橘川 健人 (きつかわ たけと)

1. 歴史探訪、ゴルフ
2. 小田原を訪れた人に楽しんで頂く様にガイドしたい。企画ガイドも出来るよう頑張ります。



1 班

土井 正代 (どい まさよ)

1. カラオケ
2. 「一步は千里に続く」幾つになってもチャレンジする気持ちを持ち続けたい。お客様に来て良かったと思ってもらえるガイドを目指したい。



2 班

宇佐美 弥生 (うさみ やよい)

1. 絵手紙、電車内での読書
2. これから、細く長くガイド協会の仕事を通して、自分の可能性をもっともっと探っていきたい。



2 班

岸本 章 (きしもと あきら)

1. ゴルフ
2. これまでに受けた恩を返しきるようなガイドに取り組んでいきたい。



2 班

中野 茂夫 (なかの しげお)

1. 森林の伐木、狩猟、クレー射撃
2. 小田原の歴史や、街の歴史を学び、自分へのモチベーションを高めて、スキルアップに努めていきたい。



2 班

松下 信 (まつした あきら)

1. 雑草木の自然観察、声大きい
2. 指導先生の良い所を学び、小田原に来ていただいたお客様に自然観察、歴史等のガイドを笑顔を持ってご案内したいと思います。



3 班

富澤 節子 (とみさわ たかこ)

1. 蟻が動くのを眺めること
2. 入会した事は、勉強するきっかけをいただいたと思って、これから頑張りたいと思います。



3 班

村嶋 良三 (むらしま りょうぞう)

1. ピアノを弾く事
2. まずは、城内と一夜城のガイドをいろいろな資料を駆使して、お客様が喜んでくれるようなガイドが出来る為に努力すること。



4 班

山口 正起 (やまぐち まさき)

1. 伊勢宗瑞研究 (始めて五年)
2. 観光に最大注力が小田原市。年間観光来場数三百万目標。箱根玄関口で箱根を頼らず。すべて見直し、切れ味アップ、全員でリピートUP。



4 班

吉田 正道 (よしだ まさみち)

1. 絵画 (来年展示会目標)
2. 小田原や周辺を勉強するにつれ、史跡や文化財を知り得ただけでなく発見もあり驚きです。幅広い知識を身に着け小田原の魅力を伝えたい。



4 班

渡辺 宮子 (わたなべ みやこ)

1. 鳥や植物の名前を覚える事
2. 六期生で入会出来て嬉しい。笑顔で元気よく、おもてなしの心を大切に、小田原の歴史や魅力をご案内したいと思っています。



☺ 気力も必要ですが、何と言っても体力勝負なガイド協会です。

無理をしないように楽しみながら一緒に小田原の魅力を伝えていきましょう。

楽しく歩こう旬情報“夏”!!

No.	企画ガイド名	日時・集合場所	参加費	コース
1	箱根・イワタバコと千仞の谷を散策	6月22日(金) 9:30 箱根登山鉄道 宮ノ下駅	500円	宮ノ下駅～熊野神社～イワタバコ群生地～夢窓疎石閑居跡～堂ヶ島溪谷～川久保発電所～桜橋～太閤の石風呂跡～富士屋ホテル周辺(解散)
2	親と子の小田原城探索	(8月予定)	(詳細決まり次第HPにて案内)	
3	東海道ウォーク	(9月予定)	(詳細決まり次第HPにて案内)	

各コースの参加申込は、実施日の1ヶ月前からです。詳細・申込み 電話番号：0465-22-8800
小田原ガイド協会HPでも詳細をご案内しています。



人は目標を失うことにより老いる

私とガイド協会との縁が始まったのは、シルバ―大学終了(平成二十四年)の時にその存在を知り、今後の活動進路として紹介された時からでした。同講座歴史コースでの学習を糧にガイドを通して、来訪された方々に小田原の歴史ストーリーを伝えられればと思い入会したのです。

入会二年目、企画ガイド「馬車鉄道」に勧められ加わり、本番の際「箱根と小田原の先人の尽力と実績を、偉人の来往集住による出会いと、かわり」を伝えたいと資料を準備し、人に伝え



ガイド協会と私シリーズ⑩
十六期生 島田 卓司

る嬉しさと楽しさを体感しました。後日、辛口の常連客からの好評の言葉を他者から聞き、我ながらガイド冥利と感激しました。

三年目に理事を引受けた際、協会活動の日程とが、かみ合わず精神的に追い詰められ、協会に留まるか退会かと悩んだ日々がありました。その時出会った言葉が「人は歳を重ねることで老いるのではない。人は目標を(挑戦)を失うことにより老いるのである。」でした。私を支えてくれた留まれた言葉であったと思います。その際、励ましてくれた当時の一班の方々に感謝しています。

引き続き、挑戦の志を失うこと無く「心にお土産を」をテーマに来訪者との縁を楽しみながら、老いていきたいと思っています。

平成三十年三月以降の退会者

栢沼 千代美様
徳永 千恵子様
宮戸 正泰様
伊関 宗明様
鈴木 昭様
米澤 秀一様
大変お疲れ様でした。

編集後記

一年前の編集委員がすべて入れ替わる中、今号を何とか発行にこぎつけました。

常に世の中は「変化」しています。タイムリーに記事に出来なかったものに「ニュー住吉橋」「お堀のかいぼり」「北條五代まつり」があります。変わるものと変わらないもの。今号をもつて四年間続いた「ガイド協会と私シリーズ」は一旦終了します。

次号からは二つの企画が始まります。乞ご期待！ (中)

編集委員

委員長

中村 哲夫
関森 規安
鈴木 康子
磯崎 知可子